

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名古屋製酪株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市天白区中砂町310
工場等の名称	名古屋製酪株式会社 本社
工場等の所在地	名古屋市天白区中砂町310
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	乳製品、アイスcream、総菜、ソースなどの製造販売
計画期間	令和4年04月01日 ~ 令和7年03月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	~		
公表方法		掲示 閲覧	(場所)
	○	ホーム ページ	(HPアドレス) https://www.sujahta.co.jp
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-831-6688		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

地球温暖化対策をはじめとする環境保全の重要性を認識し、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

- 1 地球にやさしい取り組みを進めます。
- 2 省資源・省エネルギーの活動を推進します。
- 3 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。
- 4 従業員への環境教育や啓蒙活動をすすめ、社外に対しては環境情報の公開を進めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

省エネ委員会の組織

- ・委員長は総務部長が兼務し、副委員長はエネルギー管理士と生産部保全課、車両管理課の責任者を配置。
- ・各部署、各フロアに委員を配置し、社員一人一人に対して地球温暖化対策、省エネの促進等を行っている。
- ・省エネ委員会は毎月全委員出席で開催。委員は各部署にて促進を行う。

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,039	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふつ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふつ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,039

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	t-CO ₂	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	2,871	t-CO ₂	3,441	t-CO ₂	3,013	t-CO ₂	3,039	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			▲ 19.8	%	▲ 4.9	%	▲ 5.9	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

生産量増を考慮したエネルギー使用量増予想値をそれぞれ下回り、温室効果ガス排出量は予想値より8%削減となりました。
前年比ではエネルギー使用量の増量に対し生産量の増量割合が高く、エネルギー使用効率の指標である原単位は前年比1.75%改善されました。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/エネルギー使用量の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用量の把握・計測・記録 	年度別製造販売計画から試算した温室効果ガス排出量増量予想から、毎年0.5パーセントずつ削減	エネルギー使用量を計測し記録、グループごと部署ごとに細分化し各エネルギーの使用状況を共有。データの確認・分析など省エネ活動に活用。
省エネルギー・省資源の推進/照明など	<ul style="list-style-type: none"> 不要な照明を消灯する 冷房運転を28℃に設定 動力モーター老朽品を適宜トップランナーへ更新 エアー使用量の少ない時のベビーコンプレッサーの活用・蒸気ロス（廃熱ロス）削減の為に保温 	老朽化エアコンを高効率の最新エアコンへ更新する（2台目標）	冷凍庫冷凍機を高効率型へ2台更新。 年間104,205kwh→76,414kwhに削減。 水銀灯6基をLEDランプへ交換 年間2,765kwhの削減。
省エネルギー・省資源の推進/その他	<ul style="list-style-type: none"> 啓蒙活動として省エネポスターを社内に掲示 各部署の電気スイッチの横に節電シールを貼る 		2ヶ月ごとに季節に合わせた省エネの「テーマ」と「スローガン」を決めて各部署の省エネ委員より課員の方々に取組み強化の連絡・案内を実施。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ・動力ポンプモーター老朽品からトップランナー型ポンプモーターへ更新。
- ・生産現場にて使用する温水装置の設定温度を検証にて 90℃→70℃へ変更。
- ・エアーが必要な機械装置のバルブ開放時間を検証にて 30分遅延させる。
- ・電力デマンド監視装置未着な受電設備 2ヶ所に取り付けを行い電力ピークカット実施

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・「環境保全の日」等に特に推進はしていない。日頃の促進にて実施。